

徳島県治山林道協会

# 治山林道協会報

## 新年のあいさつ

徳島県治山林道協会会長 山口 俊一



平成二十八年「申年」の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。会員の皆様には、ご壮健で新しい年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。また、日頃は、治山林道事業の推進に格別のご支援、ご協力をいただき厚くお礼を申し上げます。

昨年は、国内外で様々な問題の多い年でありました。海外においては、年の初めからI S国による拉致事件に始まり各国でテロ事件が勃発し、その間難民の受け入れ対応がEUのみの問題ではなく世界的に大きな課題となってきました。

国内においては、台風等による関東・東北豪雨による甚大な浸水被害など頻発する巨大災害の発生、全国に広がったマンシヨンの杭打ちデータ改ざん事件など国民生活の「安全・安心」が大きく揺らぎました。

明るいニュースとしては、ノーベル医学・生理学、物理学賞において二名の研究者が受賞されたこと、またこれまで話題にも上らなかったラグビー世界大会において日本チームが輝しい成績を収め次期開催国である日本での世界大会が非常に楽しみになったことや、近々では惑星探査機「あかつき」が金星軌道に、そして「はやぶさ2」が「リュウグウ」への軌道に投入成功し今後の活躍が大いに期待できるところとなりました。

政界においては、第二次安倍内閣から第三次内閣へと引き継がれ、その間戦後初の安全保障関連法が可決され法案成立となりました。また、公職選挙法の改正や改正マイナンバー法の成立、さらにTPP大筋合意など目まぐるしい変化が行われました。

国内経済は、金融緩和策により外需依存型企業の成長が進み、企業の設備投資も大手を中心に向上傾向にあるといわれております。しかし、地方の中小企業、個人の消費は未だその実感が感じられないものとなっております。このような状況の中、今後は更に「地方創生」に向け地方を中心とした施策を進めていかねばならないと考えております。

林野事業につきましては、昨今の多発する豪雨により甚大な山地災害が発生している状況を見据え、またこれらから起こるであろう巨大地震に備え、災害対策と、そして林業成長産業化を図る上において更なる予算確保に努めて参りました。平成二十八年度林野当初予算(案)については対前年度当初比一〇・一〇%、公共事業費で一、九〇〇億円、非公共事業費では一、〇三三億円となり、また最重要要求であった「次世代林業基盤づくり交付金」六一億円の創設が実現したところです。

私たちが取り組んでいる治山林道事業は、森林を適切に保全するための整備を進めるとともに、山地災害を復旧し、森林の持つ公益的機能の高度発揮を直接あるいは間接的に目指すものであり、また山村経済を支え、活力ある山村地域を構築するなど大切な事業であります。

これらを踏まえ、予算要望にあたっては、当協会の会長として、また、「(社)日本治山林道協会・日本林道協会」の会長として、治山林道事業の重要性を訴えて参りました。さらにこれまでであった治山林関係の議員連盟を新たに「森林整備・治山林道議員連盟」としてより一層の力を注いで参りたいと考えております。

最後になりましたが、これまで以上に治山林道事業の推進に精一杯努力して参りますので、なお一層のご支援、ご協力をお願いいたします。会員の皆様方のさらなるご活躍、ご健勝を心よりお祈り申し上げます。新年のあいさつとさせていただきます。

● 新年のご挨拶	徳島県知事 飯泉嘉門	… 1	● 本協会の主な動向(11月~12月)	… 6
● 新年のご挨拶	徳島県農林水産部長 犬伏秀之	… 2	● 平成27年度全国森林土木写真コンクール	… 7
● 年男の抱負		… 3	● 平成27年度山地災害防止標語及び写真コンクール	… 7
● 平成27年度日本林道協会通常総会治山・林道コンクール表彰式		… 4	● 山口会長第二次安倍改造内閣・内閣府特命担当大臣を勇退	… 7
● 治山林道技術研修会開催		… 5	● 全森建福祉共済制度のお知らせ	… 7
● 「林道研究発表会」に参加して		… 6	● 備忘録	… 7

目次  
CONTENTS

# 新年のご挨拶



徳島県知事 飯 泉 嘉 門

明けましておめでとうございます。

徳島県治山林道協会の皆様におかれましては、輝かしい新年を健やかに迎えたいと、心からお慶び申し上げます。

昨年は、最大の潜在力と言われる女性の社会進出を後押しする「女性活躍推進法」の成立や「子ども・子育て支援新制度」のスタート、十八歳までの選挙権年齢引き下げなど、日本の社会システムが大きな転換点を迎えました。一方、県内では、四国横断自動車道「鳴門JCT」徳島IC間が開通し、県道徳島空港線の西延伸により「徳島阿波おどり空港」と高速道路が直結したほか、マリニピアに耐震バースが整備され、オーシャン東九フェリーが大型船化して停泊地となるなど、「陸・海・空」の交通体系が飛躍的進歩を遂げました。

また、「地方創生・元年」と言われた昨年は、「vs東京」を旗印に、東京をはじめ大都市部に地方の素晴らしさへの気付きと、東京と「対（ついで）」となつて急激な超高齢化社会への処方箋を示すとともに、短い通勤時間や豊かな自然、地域との交流の中で、都会と変わらない仕事ができる「サテライトオフィス」誘致の加速など、「地方創生の旗手・徳島」として、全国をリードして参りました。

特に、森林・林業では、今後十年間で、県産材生産量をプロジェクト開始前の約四倍となる「六十万立方メートル」にま

で引き上げる「新次元林業プロジェクト」を策定し、生産性向上に必要な高性能林業機械の大型化や搬出量増加に対応する林道をはじめとした林内路網の整備など、雇用の創出と森林資源の循環利用に取り組んで参りました。

さて、今年の干支は「丙申（ひのえ・さる）」。前回の丙申、昭和三十一年は、日本が国連に加盟し、高度経済成長への軌道に乗って「もはや戦後ではない」と言われた年です。「丙」は、「極限まで生長した樹木の逞しさ」を表し、「申」は「電」に通じ、一直線的に向かう様子を表現しています。そこで、丙申の年は、「干支の前半三十年の常識が覆される、まさに、これまでの理屈が通用しない現実を実感する年」とされます。

本年は、二千人規模で開催するアジア初演の地・徳島ならではのベートーヴェン「第九」演奏会や定員一万五千人の国際大会へと進化し続ける「とくしまマラソン」、最先端技術が美を織り成す常設展示の「LED・デジタルアートミュージアム」が、徳島を熱気と活気で彩ります。また、全国初、六次産業化推進の学部、徳島大学「生物資源産業学部」では、今春から第一期生を迎え、高校の専門系コースから大学へと連なる新たなキャリアパスがスタートするほか、究極のクリーンエネルギー「水素」は、ステーション整備と燃料電池自動車の導入が実現し

ます。

また、「東日本大震災」から五年、「昭和五十一年の台風十七号」による大規模土砂災害から四十年、「昭和南海地震」から七十年を迎える「防災メモリアルイヤー」となる本年は、昨年全国に先駆けて策定した「徳島県国土強靱化地域計画」に基づき、集中豪雨や局所的大雨による土砂災害から生命・財産を守る治山施設、地すべり防止施設等の整備をはじめ、間伐等による計画的な森林整備、緊急輸送路を補完する林道整備を推進して参ります。

さらに、昨年大筋合意に至ったTPP（環太平洋パートナーシップ協定）に対応して、輸入木製品に対抗する競争力の高い生産・流通・加工体制の確立と製品の高品質化を図るため、川上において、林道・作業道等の路網整備、先進林業機械の導入促進、サテライト土場の整備による生産流通基盤の強化にしっかりと取り組んで参ります。

丙申の平成二十八年、徳島の歩みこそが日本の羅針盤となるよう「知恵は地方にあり」発祥の地として、「創造的実行力」で既存概念を打ち破り、「一歩先の未来」を県民の皆様と共に歩んで参りますので、本年も、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

# 新年のご挨拶



徳島県農林水産部長 犬伏秀之



新年明けましておめでとうございます。徳島県治山林道協会の皆様におかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。皆様には、日ごろから治山林道事業はもとより、本県の農林水産行政全般にわたりますこと、御理解と御協力を賜っております。

さて、林業におきましては、全国に先駆け、これまでの十年間、林業の復権と豊かな森林づくりを目指し、平成十七年度から徳島発の「林業プロジェクト」に取り組んで参りました。その結果、一五〇台を超える高性能林業機械が導入され機械化が飛躍的に進むとともに、二百人を超える方が新たに林業に就業するなど、林業は活気を取り戻し、県産材生産量はプロジェクト開始前の二倍にまで増加しました。これらの成果を踏まえ、収穫の時期を迎え充実する森林資源の更なる利用と高まる木材需要に対応するため、十年後の県産材生産量をプロジェクト開始前の約四倍となる六〇万立方メートルにまで引き上げること目標とした「新次元林業プロジェクト」を今年度からスタートさせております。特に川上では、この目標を達成するため、主伐に対応した高性能林業機械の導入支援や搬出量の増加に対応する林道をはじめとした林内路網の整備に取り組んで参ります。

また、昨年十月のTPP（環太平洋パートナーシップ）交渉の大筋合意を踏まえ、今後のTPP対策を計画的かつ戦略的に推進するため、「徳島県TPP対応基本戦略」を十二月に策定しました。森林・林業分野での対策としましては、合板やMDF等の輸入木製品との競合による県産品価格の下落、下落分の丸太価格への転嫁といった影響が懸念されることから、「新次元林業プロジェクト」を更に加速させ、木材の生産から流通・加工までの低コストの生産体制の構築とそれを担う人材の育成・確保にもしっかりと取り組んで参ります。

一方、昨年十月、三好市山城町で実施しておりました広域基幹林道下名栗山線が開通、加えて、平成二十八年三月をもって穴吹川地区民有林直轄治山事業が完工の運びとなりました。両事業の推進に当たり、格別の御理解と御協力を賜りました地元関係者の皆様方、並びに幾多の困難を乗り越え、各工事を完成いただきました会員の方々に心より感謝を申し上げます。

広域基幹林道下名栗山線は、国道に程近い三好市山城町下名地区と豊富な森林資源を有する同町栗山地区を最短ルートで結ぶ、県下有数の森林資源量を抱える林道であります。

今後は、両地区の利便性の向上や地域産業の振興に寄与することはもちろん、

近い将来発生が危惧されております南海トラフ巨大地震をはじめとした大規模災害時には、国道三二号線の迂回路としての役割を担うなど、大きな成果をもたらすものと期待しております。

穴吹川地区民有林直轄治山事業は、昭和三十六年の第二室戸台風による豪雨で広範囲にわたる大規模崩壊や溪流の荒廃が流域内の各所で発生したことにより、林野庁の事業採択を受け、昭和三十九年度から四国森林管理局徳島森林管理署に実施していただいております。これまでに、五十二年という長い年月と一三九億円にのぼる総工費を投じて事業を推進され、流域住民の生命・財産を守る治山ダムや護岸工、土留工等の各種施設を整備いただきました。

今後、県といたしましては、これらの施設を適切に維持管理して、近年大型化する台風や激化するゲリラ豪雨による大規模な水害、土砂災害をはじめ、突発的な豪雪による災害など、あらゆる自然災害に対し、致命的な被害を負わない強さと速やかに回復するしなやかさを持った強靱な県土づくり、安全・安心な地域社会の構築にしっかりと取り組んで参ります。

結びとなりますが、貴協会のますますの御発展と皆様の御健勝、御活躍を心から祈念して、新年のあいさつといたします。



# 2016 年男の抱負

# 申



西部総合県民局  
農林水産部〈三好〉  
森林整備担当

伊藤 岳

新年明けましておめでとうございます。旧年中は会員の皆様方には大変お世話になりました。

本年もどうぞよろしく申し上げます。四回目の年男を迎えることになり、誰もが思うところでしようが唯々月日の流れの早さを感じております。

私ごとではございますが、中学の頃将来山に関係する仕事に就きたいと思い、何かの指導があったのか高校の修学旅行で初めて訪れた四国の地で山に関することを学び、平成三年に徳島県に入庁したのが徳島での生活の始まりとなっております。

既に故郷で過ごした年月より徳島での生活が上回り、三人の子供達のうち二人が成人しそれぞれの希望の道へ一歩ずつ歩を進めていくところで、人間味溢れのびのびと子育てが出来来る徳島に対して本当に感謝しているところです。

仕事面ではこれまでの職員生活の全てを森林土木事業に、またそのうちの九割以上を治山事業に携わらせて頂いておりまして、比較的短期間で多方面の部署を経験する最近のトレンドからは随分乗り遅れている感が漂っています。一つの事にじっくりと取り組むみたい自身の性格を思うと幸せなことと感じております。

仕事上の思い出といたしまして、平成六年に林野庁が主催する二ヶ月半の地すべり長期研修に参加したこと、今は無き神山治山詰所での三年間、また平成十六年七月福井豪雨災害への二週間の派遣業務、三・一一東日本大震災の発災後一週間程で先遣隊として宮城県

への派遣業務を経験したことが印象深く、仕事をしたいくうえで大きな糧となっております。

また長き上司、先輩や後輩に恵まれ、市町村や業界の方々の温かいご協力により様々な困難を乗り越え、なんとか仕事をこなしてこれていることに感謝している次第です。

さて、気候変動の影響が近年の降水パターンの変化や台風の大化等に加え、南海トラフ地震の発生リスクが高まる中、山地が占める割合の高い徳島県では今後も大規模な山地災害の発生が懸念される場所であり、

治山事業では従前からの荒廃地復旧や災害復旧のみならず、限られた予算を有効に活用しながら施設の機能強化や長寿命化対策、山地災害危険地区の点検や地域住民への周知等様々な取り組みにより事前防災・減災対策を推進していく必要があります。

現在までの自身の経験を活かして目標達成のために日々努力し、次の年男を迎える時には今までお世話になってきた徳島に甚だ微力だとは思いますが私なりの恩返しが出来たら・・・と考えています。

最後になりましたが、本年も皆様方にとりまして良き年となりますことをお祈りいたしまして新年のご挨拶とさせていただきます。今後ともよろしくお願いいたします。



国土防災技術株式会社  
平井 恒輔

新年あけましておめでとうございます。旧年中は皆様方にご世話になり、ありがとうございました。

今年の干支は「申」。わたくしごとですが、三度目のとし男を迎え、早いもので平成十八

年に入社して徳島に来て十一年目になりました。

近年は、地球温暖化に伴う豪雨により土砂災害が日本各地で発生しております。一昨年前に広島市で発生した線状降水帯による集中豪雨土砂災害の映像をテレビで初めて見たときは言葉を失い、山地災害の恐ろしさを感じるとともに治山の重要性というものを再確認する出来事となりました。

本県においても、四国山地、阿讃山脈など急峻な地形に加えて三波川帯、秩父帯といった脆弱な地質が分布しているため豪雨のたびに土砂災害の被害にあつております。また、近い将来に発生が予想される「南海トラフ巨大地震」による津波、山腹崩壊に対する意識が高まってきております。

このような状況下で、山地防災力の軸となる治山事業の果たすべき役割は、住民の方々の安全、安心を考える上でますます重要ななってくると思えます。

この役割を果たすためには、これまでの先人が養ってきた森林の持つ多面的機能を幅広い世代に伝えるとともに新しい技術を積極的に治山事業に取り入れる柔軟な思考と好奇心が必要であると思えます。

私が主に携わっている地すべり防止事業では、既設構造物の維持管理が重要な課題となっております。特に地すべり防止施設は、目視点検が困難な急斜面に施工されることも多いため、安全性やコスト面で近接点検が難しいケースがあります。そこでそのような箇所に対して近年急速に普及したUAVを用いて高解像度写真から既設構造物の点検を試行段階ではありますが行っております。

このような取り組みを通じて、治山林道事業による安全で豊かな社会の実現と十年後、二十年後、一〇〇年後も徳島の豊かな自然が人と共存できることに貢献出来るように頑張りたいと思えます。

# 平成二十七年日本林道協会通常総会 治山・林道コンクール表彰式

去る十一月

十九日東京都内のホテル・ルポール麹町で平成二十七年度の日本林道協会の通常総会が開催されました。冒頭山口俊一会長から「公共事業の来年度当初予算要求が対前年比一一七・二％となっている。



また、非公営事業においても森林林業再生基盤づくり交付金の創設を目指している。予算を巡る状況は厳しいが、治山事業と林道事業は不即不離であり一体のものとして必要額を確保していきたい」との力強い決意の挨拶がありました。

また、来賓の今井林野庁長官より「林業経営基盤の根幹である林道路網等の着実な推進を図っていく」との挨拶がありました。

続いて山口会長が議長に就任し議案第一号から議案第五号まで全会一致で原案どおり承認され、林道予算の確保と施策の充実等五項目について取り組んで行くこととなりました。



恒例の「治山・林道コンクール表彰」が行われ、農林水産大臣表彰七名をはじめ合わせて百四十二名の方々が賞を受賞されました。栄えある賞を受賞をされた本県の五名の皆様方は次のとおりです。本当におめでとうございます。

## 治山・林道コンクール表彰者

### 林野庁長官賞

- 第三十八回林道維持管理コンクール

焼山寺名ヶ平線 神山町長 後藤正和

### 林野庁長官賞

- 第三十一回民有林林道工事コンクール

(有)平田組 平田茂

### 日本治山治水協会会長賞

- 第三十一回民有林治山工事コンクール

安芸産業(有) 安芸春喜

### 第十六回民有林治山木材使用コンクール

徳島県西部総合県民局農林水産部(美馬)森林整備担当

### 日本林道協会会長賞

- 第十六回民有林林道木材使用工事コンクール

(有)西岡建設 西岡憲治

林道開設事業 川崎国見山線池田工区



# 治山林道技術研修会開催

去る十月二十八日、十一月二十七日徳島市の建設センターと三好市建設業協会三好支部において平成二十七年年度治山林道技術研修会を開催しました。今年度は、県と建設業協会皆様のご協力により会場を二箇所とし日程も分けて開催した結果、予想を上回る約一五〇名の参加がありました。

この技術研修会は時代に即した治山林道工事に繋がる研究や情報、安全で事故のない現場管理、及び日々変貌する森林土木技術の対応と資質向上を目的とし開催されており、今回も当研修会は全国土木施工管理技士会連合会の継続教育学習制度(CPDS)の認定研修となっております。

研修の講師先生及び概要については次のとおりです。

## ■研修Ⅰ 徳島県中央構造線断層帯の活断層について

徳島大学大学院 村田 明広 教授

現在、東日本大震災以降、南海トラフ巨大地震が三〇年以内に高い確率で発生すると言われており、それらに備えるため、行政、民間、一個人が一体となり自助・共助・公助のさまざまな取り組みが進められているが、徳島県として忘れてならないのが巨大な活断層帯として日本列島を貫く中央構造線断層帯である。今回、この中央構造線断層帯の特徴と過去の地震履歴と被害状況、そしてこれら活断層被害の軽減対策について説明が行われた。

## ■研修Ⅱ 労働安全衛生について

労働基準監督署 渡辺 岳彦 課長  
鳴滝 伸彦 専門官

公共工事品質確保法改正に伴い入札制度や現場管理が見直され、徳島県に於いても安全管理の取り組みや入札に関連する項目が改正されている。上記の変更点を踏まえ着眼点や直接的対応について、また現場技術員の現場事象・現場対処方法などの内容を盛り込み具体的に徳島県の実情に即した実体、運用、その対応について説明が行われた。

## ■研修Ⅲ 土木技術者の原点と今後の対策セミナー

コンピュータシステム研究所 松野 哲哉 次長

①品質法改正の解説②原価管理の必要性③コンクリート施工の基本とひび割れ対策についての説明が行われた。

## ■研修Ⅳ とくしま林道Naviによる林道情報等の発信について

徳島県農林水産部農林水産基盤整備局 森林整備課 永本 吉宏 係長

徳島県には、全国スーパー林道のなかで最も延長の長い剣山スーパー林道がある。この林道は、林業用道路として、観光用道路として、また災害時の迂回路などに利用され、最近では、各種イベントの舞台にもなりつつあり利活用も多様化してきている。この多種多様な情報を新たな価値の地域資源とし、統合して発信するシステムについて説明が行われた。



# 「林道研究発表会」に参加して

徳島県西部総合県民局 溝 俣 和 哉



平成二十七年十月二十七日から二十八日の二日間に渡り、東京都渋谷区代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターにて、「第五十一回林道研究発表会」が開催され、私も「近年の林道法面崩壊の調査分析による県の取り組みについて」と題し発表させて頂きました。

この研究発表の話を頂いた時、自身の経験を振り返るのも大事ななと思い、発表することを即決しました。発表の題材は、森林整備課の木本課長補佐と相談の上、技術的な話、近年の集中豪雨等にて発生した林道法面崩壊箇所を調査分析し、災害時の法面崩壊に特化した法面保護工の選定フローチャートを作成し、その内容を発表の題材としました。

おそらく、法面崩壊に特化したフローチャートは全国初だと思えます。発表に際し、滑舌の悪い私は、作成した原稿を読み倒すよう心掛けました。ある日テレビを観ていたら、新人アナウンサーは、一〇分間程度の原稿を一〇〇回は読み込むとの話があったからです。

そして、読み原稿の時間配分も繰り返すことでは落ち着いてきました。私の発表は、二日目であったため、東京入りした日からタバコも、大好きなお酒も控え当日に備えま

した。

結果、優秀賞を頂くことが出来ました。全てが報われた気持ちで感無量でした。

これも、多くの方達のサポートやアドバイスのおかげであり、また、入庁来、様々な方々からご指導頂いた土台があったからだと思えます。

徳島県で長年培われてきた技術力で受賞できた賞でもあります。



ここ数年、公共事業の減少、人員削減等により技術力の低下が全国的に叫ばれていますが、徳島県の森林土木の技術力を示すことが出来たことは大きな成果だと考えています。

近年、想定を上回る豪雨等により、本県においては、林道災害が多く発生しています。徳島県の過去一〇年間の気象統計をみても、巨大な台風や短時間での集中豪雨が数多く発生しており、それに合致するように林道災害も増加傾向にあります。

このような災害に対応するべく、我々の先輩方が築き育まれてきた森林土木の技術力を私達も受け継ぎ、次の世代に繋げていきたいと思えます。

最後に今回、研究発表にあたり、現地調査等のご協力を頂いた、一般社団法人徳島県森林協会をはじめとする全ての皆様方に心より感謝申し上げます。また、感謝の意を伝えさせて頂く機会を与えて下さいました徳島県治山林道協会にお礼申し上げます。

ありがとうございました。

## 本協会の主な動向

(11月～12月)

### 11月

- 19日(木) 平成27年度日本林道協会通常総会、治山・林道コンクール表彰式(東京都)
- 20日(金) 平成27年度治山林道事業国会議員要望(東京都)
- 24日(火) 平成27年度全国森林土木建設業協会技術・労働委員会(東京都)
- 27日(金) 平成27年度治山林道技術研修会

### 12月

- 25日(金) 平成27年度治山林道事業に関する知事要望

平成二十七年年度  
**全国森林土木写真コンクール**  
**平井 恒輔 さん**  
**第一席最優秀賞受賞!!**

撮影者 平井 恒輔  
 撮影場所 那賀郡那賀町阿津江



全国森林土木建設業協会主催の森林土木写真コンクールにおいて当協会から推薦した平井恒輔さん（徳島市）の作品が全国第一席最優秀賞を射止められました。本当におめでとうございます。

全森建コンクルの趣旨は、森林土木に各種事業が、森林・林業を基盤から支えると共に、国民の生命財産を守っているという極めて重要な事業であることを広く国民各層に浸透させ、理解を深めるためのポスターとなる原画を募集することです。

応募作品内容は  
 ・ 工事現場で精力的に働く関係者の姿  
 ・ 工事を円滑に進めるため地域住民との話し合い風景  
 ・ 次代を担う子供たちの笑顔と森林土木工事等です。  
 今回、平成二十七年年度全国森林土木写真コンクールでは、全国から代表の七五点の応募があり、最優秀賞一点、優秀賞四点が選ばれました。なお、最優秀賞の平井さんの作品は平成二十八年年度の労働安全ポスターの原画に採用される予定です。

平成二十七年年度  
**山地災害防止標語及び写真コンクール**  
**「空気がまい！水がまい！森のおかげ」**  
**平尾 真也 さん 優秀賞**  
**写真コンクール 渓間工（谷止群）**  
**古谷 綱崇 さん 優秀賞**

（徳島県三好市三好高校三年）  
 （徳島県徳島市）

日本治山治水協会主催の山地災害防止標語及び写真コンクールにおいて、標語部門で全国優秀賞五点中の一点として、徳島県内から平尾 真也さん（徳島県三好市三好高校三年）が受賞されました。また、写真部門においては、全国優秀賞五点中の一点として、古谷 綱崇さん（徳島県徳島市）の写真「渓間工（谷止工）」が選ばれました。

このコンクールでは山地災害に対する国民の理解と関心を深めるため、都道府県及び市町村が行う「山地災害防止キャンペーン」の関連行事として、標語及び写真の作品を募集してきました。

標語のテーマは「山地災害の防止、森林や治山事業の効果、防災意識の高揚」などを広く国民に呼びかけるものであります。写真は災害を守る施設、防災パトロール、山でくらす人々と災害に関連すること等がテーマとなっています。

近年、局地的に甚大な被害をもたらす豪雨災害が頻繁に発生し、国民の安全・安心に対する関心が高まっております。このため脆弱な地形環境の徳島県にとって災害を今一度考える機会になればと関係者の皆様方に参加をお願いしました。

その結果、標語コンクールの全国応募総数は二、九九一点、写真コンクールは、一四四点あり、それぞれ最優秀賞一点、優秀賞五点、奨励賞五点（写真部門六名）が選ばれました。

そして今回多くの作品の中から二人の方が優秀賞を受賞されました。平尾さん、古谷さんおめでとうございます。また応募されました皆様ありがとうございました。今後とも作品の応募よろしくお願いたします。

**全森建福祉共済制度のお知らせ**

全森建福祉共済保険の更新・新規加入の時期がまいりました。これまで多くの方が加入されておられますこの制度は山間僻地を仕事場とする会員のリスクを軽減するために設けられた保険制度です。

- ・ 全国団体であるためお手頃な掛け金で大きな保障が得られること。
- ・ 業務上、業務外を問わず保障されること。
- ・ 受取人は事業主であること。

告知書で加入可能なこと  
 保障内容、資料請求等のお問い合わせにつきましては、徳島県治山林道協会までお願いいたします。

TEL 〇八八―六五三―三三三―五

**備 忘 録**

平成28年の新春 あけましておめでとうございます。「申」の年の由来は、枝葉が伸び果実や植生が健やかに結実する年であると言います。昨年は公共事業予算等何かと厳しい年でありましたが、今年こそ良い年になりますよう新たな気持ちで引き締めて取り組んで参りたいと思います。今年もどうぞよろしくお願申し上げます。

**山口会長 第二次安倍改造内閣・内閣府特命担当大臣を勇退**

第二次安倍改造内閣が誕生から一年余り本会の山口俊一会長は、この度十月七日の内閣改造により大臣を退任する運びとなりました。

会長は、内閣府特命担当大臣として内閣府で最多の七分野におよぶ所管業務をこなし、地方創生支援に力を注がれ、また重大で幅広くそして新たな分野の取り組みを前進させ八面六臂の活躍をされてきました。任期中はテレビ、新聞等で拝見しない日はないような状況であり日々の御活躍を目の当たりにしました。その間寝食を忘れ職務に取り組んでおられたとお聞きしました。本当に大変お疲れ様でした。

これからは、再び地方創生にご尽力頂き徳島県に新たな息吹を吹き込んでいただけることと思います。また今後は上記により、徳島県治山林道協会会長の職務に復帰されます。